

読書大すき牛小っ子

平成21年度 天草市立牛深小学校 図書・読書活動報告

1 はじめに

本校は、熊本県天草下島の南端に位置し、かつて日本有数の漁獲水揚げを誇っていた牛深港が校区内にある。昭和30年代に児童数は約3000名であったが、近年の少子化や漁業不振のあおり等により人口が激減し、本年度の児童数は384名(16学級、内特別支援学級4学級)である。このような地域の実情の中、子どもたちに夢と希望をはぐくむために、国語力向上、読書活動の充実に力を注いでいる。

2 読書活動の充実のための取組

(本校のねらい)

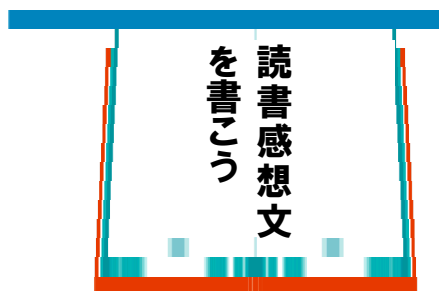
低学年：読み聞かせや教科書教材の読みをきっかけにし、易しい読み物に興味を持ち、楽しんで読書しようとする態度を育てる。
 中学年：物語や説明文など、幅広いいろいろな読み物に興味を持ち、進んで読書しようとする態度を育てる。
 高学年：自分の考えをあげたり深めたりする読み物に興味を持ち、内容や要旨をとらえながら、目的に応じて主体的に読書しようとする態度を育てる。

(図書目標の掲示)

毎月、図書目標を設定して教室に掲示することで、めあてをもって読書に取り組むことができるようにした。

- 4月：図書室に行こう。
- 5月：図書室の使い方に慣れよう。
- 6月：童話発表会の練習をしよう。
- 7月：夏休みの本を借りよう。
- 8月：夏休みにたくさんの本を読もう。
- 9月：本をていねいに扱おう。
- 10月：読書感想文を書こう。
- 11月：たくさんの本に親しもう。
- 12月：冬休みの本を借りよう。
- 1月：友だちに読んだ本を紹介しよう。
- 2月：本の整理をしよう。
- 3月：読書の反省をしよう。

図書目標 10月



(4) 読書推進部の取組

校内研究の組織に司書教諭、学校司書(市費職員)、学年部担当教員を中心に読書推進部を位置づけ、「確かな国語力を身につけた牛深っ子」の育成をめざし、児童が本に親しみ、進んで読書をするために学年や個に応じた読書活動の推進を行っている。

<詳しい取り組み内容は下記のとおりである。>

①「どくしょちよきん」の取り組み

- ・目標読書冊数の設定
- ・本の紹介や学年ごとの推薦図書による意識付け
- ・〇〇先生のおすすめの本の紹介

②保護者や地域ボランティアによる読み聞かせ

- ・読み聞かせボランティア学習会の開催
- ・絵本の持ち方や、選び方などについて
- ・夏の読書指導(読聞読聞輪組輪組なかま牛深地区ボランティアの協力)

③司書教諭と学校司書の連携による読書環境整備

※司書教諭と学校司書とで交流ノートを活用し、お互いに一日の仕事の内容を確認する。



充実した読書活動を行うために、学級の図書室利用計画を立て支援に入る。



児童の読書意欲を高められるように、掲示物を用いて図書室環境を充実させている。

(2) 児童図書委員会の取組

日々の貸し出し、返却業務は昼休み(13:15~13:35)に児童会図書委員が当番制で行っている。今年度は、年間目標を「読書の楽しさをみんなに知ってもらおう。」と決めて、低学年への読み聞かせやポスター作成など、自覚と責任をもって活動している。読書月間や読書旬間の取組を通して、楽しんで読書をする児童が増えてきた。

昼の放送での読書クイズ



貸し出しの様子



来室者の様子



(3) 学級での取組

<学級文庫の設置>

学級文庫を設置して朝自習の時間などに読んでいる。



<読み聞かせを通しての保健指導>

身体測定の際に、本の読み聞かせを通しての保健指導を行っている。児童は興味・関心をもって聞いている。



<読書列車>

難聴学級では、月ごとに読んだ本の読書カードを掲示し、学級通信で紹介している。



(4) PTA、地域ボランティアによる読み聞かせの取組

本校PTA図書委員会は、1989年度から「豊かな言葉、豊かな心の牛小っ子」をキャッチフレーズに、読書活動を運営している。年々、読書活動に対する保護者の意識が高まってきた。

- ☆ 毎月第1水曜日の朝自習の時間(8:20~8:35)に教師と保護者による読み聞かせを行う。
- ☆ 春と秋の読書旬間中の昼休み、(13:20~13:35)にボランティアによる読み聞かせを行う。
- ☆ 「読み聞かせ学習会」を計画し、読み聞かせの方法とその効果について実演していただいた。

全校集会にて紹介



保護者による読み聞かせ



教師による読み聞かせ

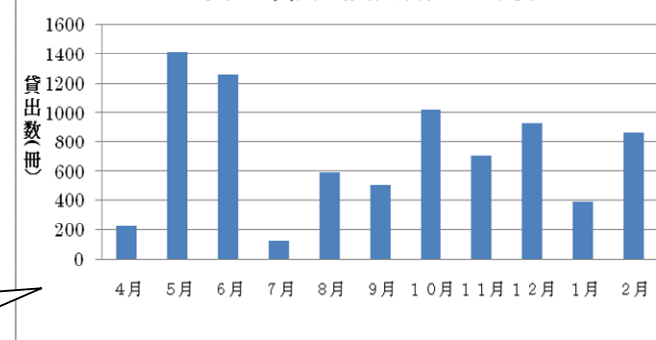


3 読書取組の成果と課題 (右グラフ参照)

今年度は「どくしょちよきん」や「読書の木」などの取組をした月には子どもたちの読書量や質の向上が見られた。また、学校をあげて共通理解したことで、教師や子どもたちの共通実践や意識の向上が感じられた。その成果があり、図書室を利用する児童が多く、読書に親しむ態度が育っている。今後は、全ての児童に読書の楽しさを味わわせ、習慣づけていくために、学校司書と連携を図り、益々充実した読書活動に取り組んでいきたいと思っている。

※ 校舎移転のため、H21年3月は貸出をしていない。

全校児童貸出冊数推(平成21年度)



4 おわりに

平成22年度・23年度は仮設校舎で、24年度からは新校舎での図書・読書活動となる。また、平成22年度は「国民読書年」である。よって、今後は児童が落ち着いた雰囲気の中で意欲を持って読書に親しむことができるような環境整備や「国民読書年」に向けての取組を考えていきたい。